

東海環状自動車道(以下、開通した。

東海環状道)は中京圏の環

状道路で、名古屋市周辺

に位置する拠点都市を結ぶ

全長153キロの道路であ

る。1984年の「東海環

状都市帯整備構想」を発端

に、緑地帯と山間部に挟ま

れた土地を活用し、活力の

ある都市圏域の一体的な発

展を目指し

た。96年に工

事が始まり、

2005年に愛知県豊田市

と岐阜県美濃市を結ぶ東回

り73キロが開通した。その

後、部分開通が進み、23年

末時点では全体の約70%が

場合に迂回路を確保する

ことである。これまでの東

海環状道の開通による役

割は、周辺地域間のスムー

ズな移動を実現し、中京圏

の発展に大きく貢献したこ

とだ。

東海環状道の開通による

主な効果を挙げると、沿線

の工業団地等の新たな開発

を促したことだ。工業団地

フロントティアを拓く東海環状道

都市圏の発展と道路網(2)

に工場が新規に立地し、生産活動が開始

され地域の雇用が創出され

た。工業統計をもとに20

00年を基準として沿線市

町の変化をみると、21年に

は製造品出荷額等は約9兆

と見込まれる。

宮下 光宏(みやした・みつひろ)

政策研究事業本部研究開発第

1部(名古屋)主任研究員

研究員



東海環状道は、24年度に

岐阜県山県市の山県インタ

ーから同県大野町・神戸町

の大野神戸インター、三重

県いなべ市の(仮称)北勢

インターから大安インター

までが開通予定である。26

年度には岐阜県養老町の養

老インターから養老山地を

トンネルで抜け、三重県区

間の(仮称)北勢インター

横切る通過交通の都心部の

流入抑制と、郊外から都心

部へ流入する交通を分散す

る効果が加わる。すなわち、

名古屋市および名古屋港や

四日市港などの国際交易拠

点と周辺地域が一体となっ

て円滑な交通環境が実現す

る。

その結果、日本の大動脈

である東西軸の信頼性が向

上する。中京圏内のモノづ

くりから生じる物流や住民

のレジャー行動から生じる

混雑による時間損失の軽減

が見込まれる。また、これ

らの効果は経済的な側面の

みならず、渋滞緩和による

環境負荷の軽減や自動運転

等の新技術を備えたインフ

ラとして役割の高度化も期

待される。

(毎週木曜日に掲載)

